



# 碧の風

千葉市立川戸中学校  
校報 第11号  
令和5年2月15日

## 開花を夢見て

校長 板垣 章子

校門わきの木蓮の花芽が膨らみはじめ、待ち遠しい春の訪れを知らせています。日没も伸び、慌てて生徒を帰宅させていた放課後の時間にも、少しだけ余裕が出てきました。

それでも2月は厳寒期、北国ではまだまだ降雪のニュースが続きます。そのような中、本校では、2年生が二泊三日で、福島県的那須甲子に自然教室に行ってきました。新型コロナウイルス感染症のため、過去2年間は全市的に中止となっていた行事ですが、今年度は市内すべての中学校で実施されることとなりました。千葉市では、群馬県の赤城青少年自然の家か、福島県的那須甲子青年自然の家のどちらかを利用することになっており、本校は後者の那須甲子で、スキー学習をメインとするホワイトスクールでした。保護者向けの事前説明会では、すでに実施した他校の情報をもとに様々なリスクを想定し、細かい説明をさせていただきました。ご家庭の協力と早い時期からの健康観察が功を奏し、最も心配していたコロナ感染を回避することができました。そして大きなケガや事故もなく、生徒たちは無事に3日間の行程を終えることができました。帰葉し、到着したバスから次々と降りてくる生徒たちの表情には、自然の中で仲間とともに過ごした充実感や満足感、そして成長の姿を感じ取ることができました。また、何か月も前から準備とシミュレーションを繰り返し、生徒たちに向き合ってきた教職員からは、安堵の笑顔が見られました。

大きな行事を終えたばかりですが、2年生には1年生とともに、期末テストという試練が待ち受けています。今まさに、進路選択の最終段階に入った3年生の姿に一年後の自分を重ねながら、2年生も「十五の春」に向けて切磋琢磨し、たくましく育っているところです。

恒例の蓮池そうじが、先日行われました。「故郷づくりの会」の方々が、泥だらけになりながらも地下茎を掘り上げ、新しい芽を傷つけないようにしながら、一つ一つ丁寧に植え替えました。その様子は、生徒一人一人を思う大人の姿そのものであると感じました。

冷たい北風が優しい春風に変わり、草木が一斉に芽吹く季節がすぐそこまできています。いくつもの試練を乗り越えながら、陽の光、水、土中の養分といった周りからの愛情を自らの力に変え、生徒たちもまた、自分の花を咲かせてくれることでしょう。

川戸中生、頑張れ！